

令和6年度 慶進中学校・高等学校 学校評価書

1 学校教育目標	
教育理念 (スクールミッション)	建学の精神「至誠」のもと、「独立自尊」「至誠一貫」「敬愛感謝」の校訓を具現化した教育の実践、多様な価値観に触れる教育活動の実践により、生徒一人ひとりが自らがかけがえのない大切な存在であることを自覚し、「強い志」「高い学力」「高い人間力」を身につけ、社会に貢献する人材を育成する。
ビジョン 2030	教育理念の確実な実現に向けて、Society5.0の時代に求められる新たな資質、能力を兼ね備えた人材を育成する、地域に不可欠な全国有数の進学校をめざす。

2 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
◎ 生徒を中心に据えた教育活動の実践	
○ 効果的な教育活動が行える生徒数の確保	
○ 課題解決型学習(PBL)、STEAM教育を取り入れた「慶進コンピテンシー12」を養う教育の実践	

3 自己評価					4 学校評価総括及び学校評価委員会	
領域	目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	取組と課題及び学校関係者の意見・要望	評価
学習指導	学力の定着状況の把握と数値目標を意識した教育の実践	「国語科基礎学力定着目標」、「数学科大学入試に不可欠な基礎学力」、「英語科基礎学力」に基づき取組を進める。 中期計画番号：3-1-1	国語・数学・英語の左記の目標にそれぞれ示された達成数値の割合(各教科20点)(国20+数20+英20)/60×100[%] 4：70%以上 3：60%以上 2：50%以上 1：50%未満	3 65.6%	○ 3教科の目標に示された基礎学力の定着度は65.6%であった。一昨年度からICT推進室と連携し、学習アプリ「Monoxer」を活用しているが、生徒は主に英単語の暗記に積極的に活用しており効果も認められる。今後も、MonoxerやMexcbtといったICT学習アプリの基礎学力定着への有効性について各教科に周知していく。 ○ 生徒アンケートによるプレゼンテーション等へ参加した生徒の割合は34.7%であった。目標値には届かなかったが、生徒の自主的な探究活動の取組が進んでいる。コースや教科による取組の差があることから、それぞれの取組状況を把握しシラバスの的確な運用を図りより充実した教育活動にしていく。 ○ 今年度は、山口県留学支援事業(オーストラリア)に1名、宇部市ニューカッスル姉妹都市交流に中学、高校からそれぞれ2名(計4名)の生徒が派遣された。また、オンラインの世界トップレベルの教育プログラムであるスタンフォードe-Yamaguchiプログラムに2名の生徒が参加した。また、中高一貫コースではオーストラリアでの海外語学研修、台湾への修学旅行を実施するなど、国際理解を深める取組を進めた。次年度も継続していく。	B
	生徒の自主的な探究活動の深化	コース・教科・行事・特別活動等において、表現の場(プレゼンテーション)を設定する。 中期計画番号：3-2-2	生徒アンケートで、「活動の表現の場(プレゼンテーション等)」に参加した生徒の割合 4：70%以上 3：50%以上 2：30%以上 1：30%未満	2 34.7%		
	国際理解教育の推進	国及び各自治体、団体が主催する留学プログラムや短期研修、交流会(含、オンライン)に積極的に参加させる。 中期計画番号：3-4-1	国及び各自治体、団体が主催する留学プログラムや短期研修、交流会(含、オンライン)の参加者数 4：10人以上 3：5人以上 2：3人以上 1：3人未満	3 7人		
生徒指導	学校行事の充実及び自主性・自律性の育成	慶進祭、スポーツフェスティバル(中)、体育祭(高)、クラスマッチ(中、高)等の学校行事・生徒会行事を充実させる。 中期計画番号：3-5-2	生徒アンケートで、「学校行事・生徒会行事」に関する生徒満足度の割合 【高】 【中】 4：85%以上 4：95%以上 3：75%以上 3：85%以上 2：65%以上 2：75%以上 1：65%未満 1：75%未満	4 (高) 90.0% 4 (中) 95.0%	○ 生徒アンケートでは高校90%、中学95%の生徒が満足感を示しており、生徒会や3年生を中心に行事の満足度を高めることができている。生徒会を中心に、生徒一人ひとりが役割を担い主体的に行動していることがアンケートからもうかがえる。行事の際の生徒会総務委員会と担当教員の連携をより強め、スムーズな準備・運営に努めたい。 ○ 校内外を問わずスポーツ・芸術活動に参加している生徒の割合は66%であった。生徒は各部活動の目標に向けて主体的に活動しており、全国大会出場を始め成果をあげている。生徒がスポーツ・文化芸術活動に主体的に取り組めるような環境整備にも努めていく。	A
	スポーツ・文化芸術活動への主体的取組	校内外を問わず、スポーツや文化芸術活動に取り組む生徒を増やす。 中期計画番号：3-5-3	部活動及びスポーツ・文化芸術活動(校内外)に参加している生徒の割合 4：70%以上 3：60%以上 2：50%以上 1：50%未満	3 66%		
キャリア教育	生徒の進路選択における主体性の育成	先輩の体験談、社会人講話等を効果的に設定し実施する。 中期計画番号：4-1-1	体験談、社会人講話等の開催回数(各コース計) 4：6回以上 3：5回 2：4回 1：3回以下	4 8回	○ 先輩の体験談及び社会人講話を各コース合わせて8回実施した。設定した計画以上の成果をあげており、大学生・社会人としての将来の自分の姿を考えるなど、生徒の進路選択における主体性の育成に大いに役立っている。次年度も継続してこの取組を進めていく。 ○ 担任・進路部による進路相談を始め、「地元大学研究会」や「医進プロジェクト」の取組としての進路相談等、計画的・効果的に取組を進めている。これらは、生徒の主体的な進路選択に向けた支援として効果をあげている。次年度も継続して計画を進めていく。	A
		各コースと連携し適切な時期に効果的な進路相談を実施する。 中期計画番号：4-1-2	進路相談実施回数 4：3回以上 3：2回 2：1回 1：0回	4 3回		
人権教育	人権尊重の意識の高揚と生徒一人ひとりを大切にする教育の組織的・計画的な推進	人権教育関連行事及び生徒の人権学習関連行事を計画的・効果的に実施する。 中期計画番号：3-5-1	生徒アンケートで、人権学習関連行事に関する肯定的評価の割合 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満	4 97.1%	○ 人権をテーマとした講演会を2回、LHRを1回実施した。生徒の肯定的評価は1回目の講演会は98.4%、2回目が93.6%、LHRが99.3%といずれも高い数値を示している。次年度も継続して取組を進めていきたい。生徒はもちろんであるが、教職員自身の意識についても、常に向上を図る必要がある。併せて、情報モラルやSNSの利用方法、マナーについての教育もさらに進めていく必要がある。	A

地域連携活動	地域との連携・協働による地域社会への貢献 中期計画番号：6-1-1	ボランティア活動及び郷働ネット参加者による地域貢献活動を推進する。 4：60% 以上 3：50% 以上 2：40% 以上 1：40% 未満	地域連携教育活動に参加した生徒の割合(延べ数) 2 49.0%	○ 地域連携教育推進委員会において、生徒の活動を推進してきた。活動に参加した生徒の延べ人数は397人(実人数188人)、延べ人数の割合は49%であった。生徒の感想からは、実社会での活動は人間力の育成につながっていることがうかがえる。地域社会における問題発見から課題を設定・解決していく探究型学習につなげていきたい。	C
健康・安全教育	保健室・相談室の利用、カウンセラーのコンサルテーションの充実 中期計画番号：5-2-1	保健室利用満足度を維持し、SCによるカウンセリング満足度を向上させる。 4：90% 以上 3：80% 以上 2：70% 以上 1：70% 未満	生徒アンケートで、「保健室利用」満足度の肯定的評価の割合 3 88.6%	○ 生徒アンケートによる肯定的評価は88.6%で、昨年度より0.1ポイント上昇した。カウンセリングについても年間計画どおり進行し、生徒の肯定的評価も高い。課題であった突発的なカウンセリング希望生徒への対応も、今年度はスムーズにできている。今後もより良い保健室経営に努めたい。	A
	危機管理に対する安全教育・訓練の実施 中期計画番号：11-2-1	安全教育に関する講話・訓練を年6回実施するとともに、教職員の危機管理研修を行う。 4：95% 以上 3：85% 以上 2：75% 以上 1：75% 未満	生徒アンケートで、「今回の講話・訓練は役に立ったと思いますか」の肯定的評価の割合 4 98.0%	○ 安全教育に関する講話・訓練を今年度は6回実施した。生徒アンケートによる肯定的評価は98%と高い満足度を示した。危機管理に関して毎日、毎時間ごとの校舎巡回を実施し異変・異常の早期発見に努めている。避難に関しては、年度当初に各クラスの避難経路を確認しているが、状況に応じて臨機応変に対応できる判断力を養うことも必要である。	
ICT教育	「Road to 2025」の実践 中期計画番号：3-3-1	「ICT教育環境の整備と活用による効果的な教育活動の推進」と「生徒及び教職員のICTスキル向上」を実践する。 4：50% 以上 3：40% 以上 2：30% 以上 1：30% 未満	教員アンケートで、「Road to 2025」の各項目におけるICTスキルに関する「できる」「だいたいできる」の割合 2 32.6%	○ アンケートにおける各項目の「できる」「だいたいできる」の割合は32.6%であった。項目の中でFeelnote及びMonoxerに関する項目の達成率が低い傾向がある。全教員が、業務にICTを十分に活用できるようにスキルのマニュアル・動画を作成しスキルアップを図る必要がある。次年度も「Road to 2025」を共有し、ICTスキルの向上に努めていく。	C
学校事務	補助金の有効かつ計画的な運用 中期計画番号：13-1-1	特色教育補助金募集に対して計画的にエントリーする。 4：基準値の4% 以上 3： 〃 3% 以上 2： 〃 2% 以上 1： 〃 2% 未満	「山口県私立学校運営費補助金」の特色教育部分の増額率 1 -8.4%	○ 補助金の全体額については、本年度は「高等学校DX加速化推進事業」に申請し補助金を獲得することができたため大幅な増額となったが、特色教育部分に関しては8.4%のマイナスであった。次年度については、今年度内に全教員からの意見を集約し、スケジュール管理のもと余裕ある申請に努めたい。	C
	経費抑制の目標数値の実現 中期計画番号：13-2-1	毎月の消耗品、光熱水費、通信運搬費等データを周知し、経費削減の意識を高める。 4：基準値の3% 以上 3： 〃 2% 以上 2： 〃 1% 以上 1： 〃 1% 未満	経費の削減率 1	○ 毎月の経費データを作成し、幹部会議で部課長に示し周知するなどして経費削減に努めたが、目標としていた成果が得られなかった。会議資料等は各自の情報端末で共有しコスト削減に努めたが、昨今の燃料費高騰による用紙代の大幅値上げにより削減には至らなかった。さらに工夫し取組を進めていく。	

5 次年度への提言

【学習指導】

- 生徒の学力の定着状況を適切に把握し、数値目標に到達するように教育活動を展開する。
- Monoxer 及び MEXCBI 等の学習アプリや学習支援システムを授業や課外等で活用し、模試・定期試験等で検証する。
- 生徒の自主的な探究活動を深化させるため、コース・教科・行事・特別活動等での実施状況を把握する。

【生徒指導】

- 生徒の自主性・自律性を養うことを意識し、学校行事のさらなる内容の充実を図る。
- 生徒がスポーツ・文化芸術活動に主体的に取り組み向上し楽しむことができるよう、部活動の指導や環境整備に努める。
- ICT 推進室と連携し、SNS 等の使い方やマナーについての教育をさらに進め徹底していく必要がある。

【キャリア教育】

- 先輩の体験談、社会人講話等を効果的に設定し、生徒の進路選択における主体性を育成する。
- 各コースと連携し、適切な時期に効果的な進路相談を実施することで生徒の進路決定における主体性を育成する。一つの手段として、次年度は中学校教育相談、高校進路面談週間を全校合同で実施するかたちとしたい。

【人権教育】

- 人権教育に係るさまざまな教育活動をととして人権尊重の意識を高め、生徒一人ひとりを大切にする教育を組織的・計画的に推進する。

【地域連携活動】

- 地域連携活動を行う中で、その学びを総合的な学習・探究の時間につなげ、自分の将来と社会を少しずつ結びつけていく活動を推進する。
- 地域社会における問題発見から課題を設定し、地域連携活動により問題解決のプロセスを体験的に学ぶ探究型学習を推進する。

【健康・安全教育】

- 保健室利用満足度を維持し、希望生徒(保護者)のスクールカウンセラーによるカウンセリング満足度の向上に努める。
- 学校安全計画に基づき危機管理に対する安全教育・訓練を実施するとともに、教職員の危機管理研修も行う。

【ICT教育】

- 「Road to 2025」を共有し、2つの柱である「ICT 教育環境の整備と活用による効果的な教育活動の推進」と「生徒及び教職員の ICT スキル向上」の実践に努める。

【学校事務】

- 山口県私立学校運営費補助事業対象である特色教育の申請に関しては、確実なスケジュール管理と教員との情報共有により教職協働で進めていく。その他の補助金募集に関しては、事前準備のもと計画的なエントリーに努める。
- 過年度及び毎月の消耗品費・光熱水費・通信運搬費経費等のデータを作成し、教職員に周知し全体として経費削減の意識を高める。

※生徒募集

(中学校)

- 下関西高校附属中学校が開校する影響で、下関方面からの参加者減少が危惧される。現状の広報手段に加えて、潜在的な参加者を獲得するため WEB 広告を取り入れて受験者層の獲得を目指す。

(高 校)

- 夏季学校見学会の増加を入学者増につなげる方策が必要である。見学会以降も、ホームページ・You Tube に加えて、比較的中学生が視聴する機会が多いInstagram等を活用し、継続して情報提供に努める。また、内容についてはスクールブランドを落とさないように注意しながら、中学生が興味をもつようなものとする。